

一 次の文章は、ジャイアントパンダが双子を産んだ時の子育てについて書かれたものです。あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

ジャイアントパンダの子どもは毛のない①ミジクな状態で生まれるため、体温調節ができません。②お母さんは腰を下ろした状態で子をおなかの上の乳首に近いところに置き、手も使いながら身体を温め続けるのです。

③、お母さんパンダがこのように手厚く世話をしたり、乳をあげたりするのは大きくて元気のよい方だけ。小さい方は、育てないというわけです。その赤ちゃんは、地面に置かれたまま身体が小さくなって死んでしまうか、ときには巨大な母親の下敷きになったりして命を落とします。

お母さんパンダはなぜ④こんな「ムダ」とも思えることをするのか。

せつかく生まれた赤ちゃんを、<sup>注1</sup>むぎむぎ死なせる手はない。そこで、<sup>⑤</sup>ツイン・スワッピング法(双子すりかえ法)という育児法が開発されました。双子をどちらも大きくするために、お母さんが一頭の世話をしている間、もう一頭を人間が預かります。頃あいを見て二頭をすりかえながら、お母さんの母乳をどちらにも飲ませて育てるわけです。

とは言うものの……双子をすりかえる以前に、パンダのお母さんはどうやって生まれたばかりの赤ちゃんのうち、育てるべき、大きくて元気のよい一頭を選ぶのかという問題があります。もし小さい方が先に生まれたなら、数時間後に生まれた大きい方と取り換えるのでしょうか？

少なくとも<sup>注2</sup>アドベンチャーワールドでの出産では、双子はすべて大きい方が先に生まれているというのです。たとえば<sup>注3</sup>良浜は第二子に<sup>⑥</sup>カンシンを示さなかったわけですが、どの出産でも第一子の方が大きかったため、おのずと大きくて元気な方を選んでいくことになるのです。

そして第一子から数時間後に小さな第二子が生まれてくるものの、小さいので母親のカンシンは向かわない。そこで、飼育員がパンダ用のミルクの入った皿で彼女の視線をさえぎりながら、その子を預かるのです。

⑦

パンダって何てバカなのと思いたくなくなってしまいかもしれません。しかし、パンダ本来の生活ではこんなおかしなことはありえないために注<sup>4</sup>策を講ずる必要がなく、対応する術すべを持っていないということなのでしょう。

ただしアドベンチャーワールドによると、すりかえ自体については母親は完全にわかっていているようで、「連れ去られる子どもを目で追っている」とのこと。

双子のすりかえは、子に産毛うぶげがしっかり生えそろう、目も見え始めるまで続けられます。そして地面に置かれても自力で、母親の乳首にまでたどりつける、生後二〜三カ月頃になると双子を一緒にお母さんの元に戻すのだそうです。

すると何が起きるのか。二頭が同時におなかのうえに乗つかるといふ初めての事態に、母親はキョトンとしてしまうそうです。それでもすぐに二頭のおしりをなめるなど、世話をやき始めるといいます。

しかし母親パンダが、⑧産んだ双子を二頭とも育てることは本来無理であることが、実際にアドベンチャーワールドで確認されました。野生の場合、生後一年まで一頭の子が母親からお乳をもらいます。

注<sup>5</sup> 梅梅の場合は産後半年まで、良浜は二、三カ月までは何とか自身のお乳だけで二頭を育てることができていましたが、それ以降はどうしても量が足りなくなりました。そのためお乳の出具合を観察しながら飼育員が人工のミルクで⑨オギナったのです。

これで梅梅も良浜も、二頭の子を自分のお乳だけで育てあげることなど到底不可能だということがはつきりしました。

ここでもし、何としても二頭とも育てるといふ、「意志の強い」注<sup>6</sup>遺伝子を持ったメスがいたとしましょう。彼女が、大きい子

しか育てず、小さい方は育てないという、「注7 怠惰な」遺伝子を持ったメスと自分の遺伝子のコピーを残す競争をしたとする。結果はどうでしょうか。

残念ながら、前者のメスの子どもは共倒れ⑩となってしまいます。パンダには本来、二頭とも育てあげるほどのお乳の余裕よゆうがないのだから。こうして「意志の強い」遺伝子は、「怠惰な」遺伝子との競争に敗れてしまう。こうして双子のうち大きい方しか育てないという遺伝子だけが残ってきたのです。

〔本当は怖い動物の子育て〕竹内久美子

注1 むぎむぎ・・・残念に思いながら、何もできずに。

注2 アドベンチャーワールド・・・和歌山県白浜町にあるテーマパーク。動物園、水族館、遊園地がある。

注3 良浜・注5 梅梅・・・ともにアドベンチャーワールドのメスのパンダ。

注4 策を講ずる・・・対策をたてる。

注6 遺伝子・・・祖先や親が持っている性質などを子孫に伝えるもの。

注7 怠惰な・・・なまけていてだらしない。

問一 — 部①・⑥・⑨のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 部②・③に当てはまる言葉の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア さて    イ または    ウ しかも    エ しかし    オ なぜなら    カ そこで

問三 — 部④「こんな『ムダ』とも思えること」について具体的に説明した次の文の□部に当てはまる言葉を、Aは十五字程度で、Bは五字以内で文中からぬき出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

パンダは、双子を産んでも大きくて元気のよい方だけ  A  して、小さい方は  B  こと。

問四 — 部⑤「ツイン・スワッピング法」とあるが、この育児法が開発された目的を文中から十五字以内でぬき出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問五  部⑦に当てはまるように、次の各文を並べかえ、その順番を記号で書きなさい。

ア そして数時間がたったとき、またパンダ用のミルクの入った皿を差し出して気をそらし、子を交換する。

イ こんなことをくり返しながら、母親にはあたかも一頭しか子を育てていないかのように錯覚させるのです。

ウ 飼育員は片方の子を預かると、おしりを刺激して排便や排尿をうながし、体を冷やささないよう、保育器の中で温めます。

問六 — 部⑧「産んだ双子を二頭とも育てることは本来無理である」とあるが、なぜ無理なのか。文中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問七 — 部⑩「前者のメス」とは、どのようなメスか。文中からぬき出して書きなさい。

問八 — 部⑪「共倒れ」とは、二頭の子どもがどうなることか。わかりやすく十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れません。)

問九 本文の内容に合わないものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア パンダが双子を産む時、二頭のうち、大きくて元気のよい方が先に生まれ、数時間後に小さい方が生まれる。
- イ 飼育員たちは母親。パンダに気づかれないように双子をすりかえているが、母親はそれに気がついている。
- ウ 産んだ子が一頭だと思いいこんでいる母親。パンダは、実は子が二頭いることがわかっていても育てようとしなない。
- エ すりかえの子育てでは、双子のどちらにも母親。パンダのお乳を飲ませて育てあげようとするものである。
- オ 双子のすりかえ法は、生後二〜三カ月頃、お乳を飲まなくても育ていけるようになるまで続けられる。
- カ パンダが、せっかく双子が生まれても大きい元気な方しか育てようとしなないのは、遺伝子がかかわっている。

このページには問題はありません

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

〈小学四年生の時夫がカンケリをする姿を、一人のおばあさんが近くの青屋根の建物からいつも見ていた。時夫はずっと気になつていたが、おばあさんがいる建物は色々なうわさがあり、子供たちはこわがつて近寄らない所だった。時夫は一カ月ほど前、偶然くうぜんそのおばあさんと知り合った。そのときに二人の名前が似ていることがわかり、時夫はおばあさんに「友だちになつてくれないか」と言われたのだつた。〉

それから毎日、おばあさんは窓から時夫を見つめていたのだ。あそびに来てほしいのかもしれない、時夫は何度もそう思ったが、

①その勇氣ゆきはなかつた。キャベツ畑のむこうの青屋根といえ、子供たちにとつて、おばけ屋敷やしきもおんなじだったのだ。

けれども、もう決心した。時夫は②胸むねをはり、キャベツ畑のまん中の細い小道を、どンドン歩いていく。

「もどつてこいよ。鬼おにばあがいるぞ」

「ハンバーグにされちゃうから」

みんなの声が、うしろからきこえていた。

小さな玄関げんかんに入り、病院のような待ち合い室をぬけると階段があり、窓を目印にいくと、おばあさんの部屋はすぐにわかつた。

色あせた畳たたみの上に冷蔵庫とテレビがおいてある。時夫は帽子ぼうしをとつておじぎをした。

「待つとつたよ。これはルームメイトのゆりこさんに、げんさんに、ひさしさん。これは私の友だちのトキオ」

おばあさんは順番しゆんばんに紹介しやうかいし、冷蔵庫からジュースをだしてくれた。おばあさんが「ルームメイト」という言葉を使ったのがなんとなくおかしくて、時夫は心の中で③笑い、緊張きんちやうが、④ほどけた。

「毎日毎日、カンけりしとったなあ」

おばあさんが言って、

「トキさんはまた、それを毎日毎日、見とったなあ」

ひさしさんが言った。ひさしさんは白髪頭しろがを短く刈かった、色白のおじいさんだ。

「見ていると、私もいっしょに遊んでいるような気がしておってね」

おばあさんははずかしそうに笑うのだった。

その日以来毎日、学校から帰ると時夫は注<sup>1</sup>養老院に遊びにいった。おばあさんがどっさり持っているおはじきや昔のお金、古い写真や思い出話は、冷蔵庫でひえているアイスクリームやバナナよりもっと魅<sup>みりよく</sup>力的だった。

ある夜、晩ごはんを食べながら、お母さんが言った。

「あんまり食べないのね」

「きょうはおばあちゃんのところで、スイカ食べたからね」

⑤「こまったわねえ」

お母さんは小さくためいきをついた。

「ごめん。これから気をつけるよ。夕方になったら、すすめられても食べない」

「食べるものだけのことじゃないのよ」

「じゃ、なあに」

時夫がきくと、お母さんはお父さんの顔をみた。

「とにかく、養老院にばかり遊びに行くのはよしなさい」



それまでテレビで野球をみていたお父さんが言った。

「どうして」

「どうしてもだ」

友だちになったのに行っちゃいけないなんてことあるもんか。時夫は⑥ふくれつらをして、エビフライにかじりついた。

夏休みも半分がすぎたころ、時夫がいつものようにおばあさんの部屋にあそびにいくと、階段の上にはげんさんが立っていた。白いランニングシャツから、やけた腕をこつこつとだして、やっぱりたばこをすっている。

「⑦もう、トキさんのところに行くのはやめた方がいい」

時夫は腹が立った。お父さんならまだしも、げんさんにそんなことを言われるすじあいはない。

「どいて下さ」

まっすぐおばあさんの部屋に歩いていく時夫のうしろ姿を、げんさんは階段の上に入ったままみつめていた。

ドアをあけると、おばあさんは窓のそばにすわっていて、時夫をみても知らん顔だった。

「こんにちは」

時夫があいさつすると、おばあさんはふかぶかと頭をさげた。

「おとといから、急にボケちゃったんですよ」

ひさしさんがあつさりと言い、おばあさんはぼんやりと、窓の外をみていた。⑧時夫が□信□疑のまま立っていると、とつぜん、

おばあさんがかん高くさげんだ。

「トキオツ。トキオじゃないか」

おどろいている時夫にしがみついたおばあさんは、ものすごい注ぎようそうで髪をふり乱していた。

「やっとみつけたよ、トキオ。もうにがすもんか。ここから出しとくれよお、トキオ。死んでもいっしょだよね。友だちだもんね」  
ほそくてしわだらけの腕の、いったいどこにこんな力があつたのか、げんさんが入ってきておばあさんをおさえてくれたあとも、  
時夫はしばらく動けなかった。背中がつかなくて、ひぎに力が入らないのだ。部屋の奥おくでは、ゆりこさんがお手玉をしていた。ひ  
さしさんはおすもうをみている。

⑨ やつぱり鬼ばばあだ。みんな鬼ばばあと鬼じじいだ。  
「ちきしょう」

時夫はそうさげぶが早いか駆け出していた。こわくて、くやしくて、涙なみだがとまらないのだ。目のすみで、きょうちくとうの花が  
ゆれていた。

それから、時夫はカンけりの日々にもどり、青屋根のできごとは、誰だれにきかれても口をきつくむすんだまま、こたえようとし  
なかつた。そのうちに、みんな青屋根のことは何も言わなくなった。学校に行き、学校から帰り、晩ばんごはんまで表であそぶ、いつ  
もの生活がもどってきたのだ。いつのまにか、秋がきていた。

『鬼ばばあ』江國香織

注1 養老院・・・高齢者こうれいしゃが手助けを受けながら、安定した生活を送るための施設しせつ。

注2 ぎようそう・・・おそろしい顔つき。

問一 ——部①「その勇氣」とは、どうする勇氣か。文中の言葉を使って二十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問二 部②・③・④に当てはまる言葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号を二回用いてはいけませ  
ん。)

ア くすつと    イ むつと    ウ ぐつと    エ するつと    オ かつと

問三 — 部⑤ 「こまったわねえ」とあるが、お母さんはどういうことに困っているのか。文中の言葉を使って二つ書きなさい。

問四 — 部⑥ 「ふくれっつら」が表す感情として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 喜び    イ おどろき    ウ 悲しみ    エ とまどい    オ 不満

問五 — 部⑦ 「もう、トキさんのところに行くのはやめた方がいい」とあるが、げんさんが時夫にこのように言ったのはなぜか。  
解答らんに合うように文中から十五字以内でぬき出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

問六 — 部⑧ 「時夫が□信□疑のまま立っている」について、次の問いに答えなさい。

(1) □に共通して当てはまる漢字一字を書きなさい。

(2) 時夫はどんな様子で立っているのか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 悲しんでいる様子    イ おこり出しそうな様子    ウ 信じられない様子    エ 何も考えられない様子

問七

——部⑨「やっぱり鬼ばばあだ。みんな鬼ばばあと鬼じじいだ。」とあるが、時夫はなぜこのように思ったのか。その理由を説明した次の文の□部A・Bに当てはまる言葉を、文中からそれぞれ指定した字数でぬき出しなさい。(句読点は字数に入れません。)

トキおばあさんは□部A(三字)だと思っていたのに、ある日時夫のことがわからなくなり、とつぜんものすごいぎょうそ  
うで時夫に□部B(六字)ので、時夫はこわくてしばらく動けなくなった。仲良しだったゆりこさんやひさしさんは、困って  
いる時夫を見てもしらんぷりしていたので、まわりの友だちが言う通り、鬼ばばあや鬼じじいだと思った。

問八

次の中で本文の内容に合うものには○、合わないものには×を付けなさい。

- ア トキおばあさんが用意してくれているおやつがとても楽しみで、時夫はトキおばあさんの所によく遊びに行っていた。
- イ 仲良くしていたトキおばあさんの様子がすっかり変わってしまった、時夫はこわくて、くやしくて、涙があふれてきた。
- ウ トキおばあさんはカンけりをする時夫を毎日建物からながめることで、自分の子どものおさないころを思い出していた。
- エ トキおばあさんのいる建物についてまわりの友だちみんなが良く思っていないことを、時夫は腹立たしく思っていた。
- オ 両親だけでなく、げんさんにまでトキおばあさんに会うことを止められたので、時夫はその理由が分からず腹が立った。

三 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の□部にあてはまる漢字一字を入れて、それぞれのことわざや慣用句が（ ）の意味になるように完成させなさい。

- ① □を売る (むだ話などをして時間をむだにする。)
- ② お□をにごす (その場をごまかす。)
- ③ とらぬたぬきの□算用 (確かでない収入をあてにすること。)
- ④ □を巻く (ひどく感心してしまう。)
- ⑤ ねこの□ (とてもせまいこと。)

問二 次の①～⑤について、それぞれ、下の説明に合うように、あとのへ へ 部から言葉を選び、漢字に直して□部に漢字を入れなさい。(へ へ 中の言葉は一回しか使えません。)

- ① □復 意味が対になる漢字の組み合わせ
  - ② 運□ 上の漢字が下の漢字を説明する組み合わせ
  - ③ □事 上の漢字が下の漢字を打ち消す組み合わせ
  - ④ □造 似た意味の漢字の組み合わせ
  - ⑤ □山 「―」を「―」に「―」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ
- へ おう と そう ちん ぶ へ

このページには問題はありません